

企業の緑地で「よこはま里山レンジャーズ」が活躍

～主催:よこはま里山研究所 NORA & 協働:自然環境復元協会～

2月9日(土)にJFEエンジニアリング(株)鶴見製作所構内緑地で、里山ボランティアによる企業緑地の保全活動が行われました。

なぜ企業緑地が「里山」?、それは JFE トンボみちや京浜臨海部の人工的な緑地でも人の暮らしと結びついた緑として、土壌や生きものを育て地域の生態系を支えていることから、企業緑地が本来の生きいきとした姿になるようにと行われました。昨年10月と12月にも行われ、今回は3回目の保全活動です。それでは、里山ボランティアの活動の様子を⇒順に紹介します。(記:相馬)



構内ビル(7階建)屋上より周辺緑地の位置関係を確認(意外と緑が多い)



構内の末広神社で作業の安全祈願を行いました



指導者より作業の手順・注意事項の説明を受け、林床の植生や土壌中の微生物を育てるために、除伐や枝葉の整理を行いました。ボランティアの皆さんの中には初めて体験する方も多く、真剣に作業を行っていました。



作った杭をハンマーで打ち込み作業(山田さん、お見事で〜〜)



柵に使う杭を鋸を使って作ります



剪定枝等を利用した「祖朶柵(ソダサク)」作り。杭の作り方の説明を受けて作業開始です。



打ち込んだ杭に枝などを巻きつけ祖朶柵が完成。写真は落葉を堆肥にする「落葉フール」。



緑地の中に遊歩道ができました。↓



森林活動ガイド園部さんの手作り作品です



最後に、明るくなった林床をさらに活性化させ、色々な生きものが訪れるようにと、地被類(中低木・草類)の補植を行いました。(写真⇒) 里山ボランティアの皆さん、緑地保全作業へのご協力、本当にありがとうございました。 <()>



京浜の森 ロゴマーク

トンボみちなんでも調査隊

皆さんの「？」を調査します。例えば、作物の連作の影響は？、外来植物への対応は？、堆肥の効率的な作り方は？など、皆さんの「？」を事務局へお寄せ下さい。

ビオトープの「アオミドロ」は駆除すべきか？（後編）

～～ トンボ池を管理するために調べてみました ～～

先月号ではビオトープなどで発生するアオミドロの特性や影響などについての調査結果を報告しました。後編ではこのアオミドロの駆除の方法、駆除することによる生態系への影響、繁殖の抑制などについて報告します。（調査員：相馬）

1. アオミドロの駆除の方法として考えられるもの

① 長期間、光量を制限すると生命活動が終止する。

しかし⇒ 池内の植物や植物性フランクtonの育成を妨げ、生態系のバランスを崩す原因になる。

② 系外（池の外）へ排除する。しかし⇒ メダカの産卵場となることから、メダカの卵が付着していることがあり、多くのアオミドロを除去すれば、生態系にダメージを与えることもある。

◆◆ これら①、②は、アオミドロを駆除することによる影響が大きいものとなる。◆◆

2. 望ましい（生態系への影響が少ない）駆除の方法

① 池の周辺に背の高い樹木等を施し光量の適度な制限を行なう。

② 池内に水の流れを作ることによるアオミドロの発生抑制を行なう。

③ アオミドロを捕食する生物（例：ヌマエビ、タニシなど）を用いた食物連鎖を利用した抑制を行なう。

④ 高等植物の水草の育成を図り、水中の養分をそちらが吸収し、春に一時期の発生ですむようにする。

◆◆ それでは、「JFEトンボみち」ではどうするのか…みんなで考えて見ましょう。◆◆

参考文献：①前橋工科大学建設工学科梅津研究室「ビオトープ管理におけるアオミドロの発生抑制手法の検討」（2006年）

② 同上「ビオトープ管理のための水生雑草の生態調査及び繁殖抑制手法の検討」（2007年）、

③フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」の「アオミドロ」

【連載】 トンボみちの仲間たち

1月26日（土）のファンクラブ活動の様子です。（撮影：山田裕子さん）



ジャガイモの収穫



さっそく茹でて、みなさんとじゃがバターをいただきました



畑づくり（耕作）



収穫した新ジャガ



将希ちゃんと優奈ちゃん（兄妹）



ファンクラブのみなさん

これからの活動予定です。雨天は1週間延期
今月：2月23日（土）10時～12時
来月：3月23日（土）10時～12時
事前の申込みはいりません。誰でも参加可能。

発行日：2013年2月20日
発行者：トンボみちファンクラブ事務局
事務局：〒230-8611 横浜市鶴見区末広町2-1
JFEエンジニアリング(株)鶴見製作所 環境保全室
Tel045-505-7447, Fax045-505-6546

ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています。